

# 羽水高、香港学校と協定

## 生徒対話、地域課題解決へ

福井市の羽水高は3日、経済協力開発機構(OECD)と文部科学省が推進する教育研究活動に取り組むため、香港の学校と姉妹校協定を結んだ。遠隔授業システムを使って生徒が対話し、地

域の課題解決を考える。将来的に生徒が互いの学校を訪れ交流するほ

か、教員間の結びつきも深める。OECDや文科省は、



国際協働学習に向け協定を結んだ羽水高の松田校長(左)と香港の学校の尹校長(右)3日、福井市の羽水高

中学生による地方創生モデルの創出を目指す教育プログラム「地方創生イノベーションスクール2030」を推進。羽水高は生徒の課題解決力などを培うため2016、17年に第1期プログラムに参加し、市への政策提言に取り組んだ。

第2期で国際協働学習を実施するため、交流のあった香港の元朗信義中に協定締結を提案した。同校には12〜18歳の生徒が通う。

この日、尹浩然校長(47)ら5人が羽水高を訪問。校内を見学し学校について紹介し合った後、協定書に互いに署名した。羽水高の松田透校長(56)は「生徒の視野を広げるために役立てた

い」、尹校長は「部活や吹奏楽、スポーツでも交流を深められたら」と話していた。協定期間は3年間。今後は交流・連携の具体的な内容を決める。(川上桂)